

訓練開始

現場の確認
自動火災報知設備の受信機で発報区域を確認し、消火器、携行ライト、送話器等を持って現場へ急行

火災発見
「火事だー!火事だー!」と叫ぶ

通報
落ち着いて119番通報を!

初期消火
消火器を出火場所に集結!
屋内消火栓も活用

避難誘導
明確に指示!
出火箇所を避けて誘導
避難口で「こちらから逃げて下さい」と叫ぶ

情報伝達
建物内の人に、自衛消防隊に、責任者等に

区画の形成・人員確認
残留者がいないことを確認し、防火戸等を閉鎖!

自力で避難できない人を避難場所まで搬送

消防隊に情報提供
逃げ遅れは?
出火箇所は?

避難場所に集合・待機
負傷者等の有無



消防隊到着

避難人員の確認
全員避難したか?

訓練終了
おつかれさまでした

訓練実施検証

□ はじめに

消防法の規定では、一定規模の建物の管理権原者は、防火管理者を定め、消防計画を作成し、防火管理上必要な業務の実施を定めています。

その中でも、**消防計画に基づく訓練の実施**は最も重要な事項です。特に特定防火対象物(集会場・スーパー・ホテル・病院等の不特定多数の人が出入りする施設)には、**年2回以上の消火・避難訓練の実施**が義務づけられ、火災等による被害を最小限にすることとされています。

効果的で臨場感がある訓練の実施には、綿密に事前計画を立て、訓練内容を十分に検討の必要があり、防火管理者を中心に、自衛消防隊員の皆さんと打ち合わせを行い準備を整えましょう。

□ 事前準備

1 訓練計画の作成

まず、事前の計画を立てます。防火管理者が一人で作成するのではなく、できるだけ参加する職員を交えて話し合いながら計画を立ててください。

① 訓練日の決定

② 出火場所の設定

どこから出火したのか設定します。出火箇所は訓練の都度変更するとよいでしょう。

③ 出火時間の設定

火災が発生した時間を設定します。火災はいつ発生するかわかりません。また発生時間により対応できる人数も変わってきます。

④ 役割分担の決定

消防計画に定められている自衛消防隊の編成に基づき、通報班、初期消火班、避難誘導班を決定します。指揮者は、防火管理者の方が適当でしょう。的確な指示を出し、訓練をスムーズに進めていくためにも、指揮者は訓練全体の流れを把握しておく必要があります。

※火災時はパニック状態となり、又、消防計画で定めた担当者が不在の場合もあり、マニュアルどおりにはならない事の想定も大切です。

⑤ 避難場所・搬送方法の決定

最終的にどこに全員を避難させるか決めておきます。また、自力で避難できない人たちがいる場合は、避難場所までの搬送方法について、訓練の想定や訓練に参加できる人数に合わせ、最良の方法を決定します。

2 訓練日の告知

訓練実施日を各従業員や入所者等に事前に知らせておきます。訓練を重ねることにより全員が機敏に動けるようになれば、事前のお知らせをしないで、実施するのも効果があります。

また、訓練時に非常ベルを鳴らす場合などは、近隣の人が本当の火災と間違えないような配慮も必要でしょう。

3 消防機関への事前通知

特定防火対象物(集会場・スーパー・ホテル・病院等の不特定多数の人が出入りする施設)の関係者が避難訓練を実施する場合は、その旨を消防機関に通報しなければなりません。

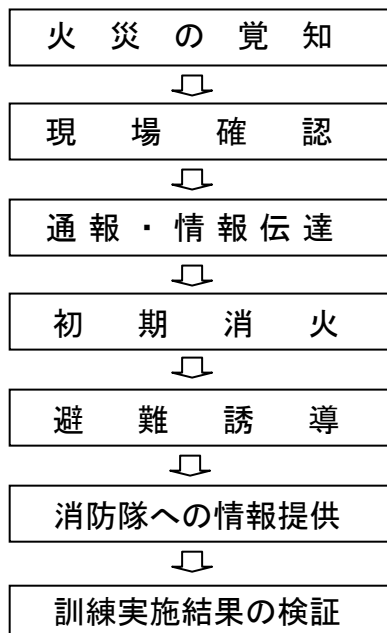
訓練実施前に・・・「消防訓練実施計画書」

訓練終了後に・・・「消防訓練実施結果報告書」



□ 訓練の実施

訓練の流れ



実際の火災では同時に実施しなければならないことがあります。

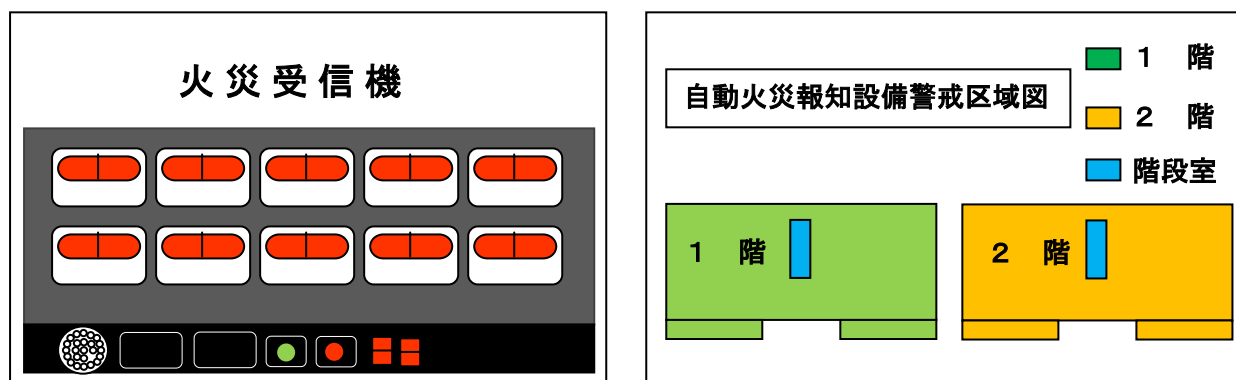
★1 出火点の設定と火災の覚知

出火箇所を設定し、目印を表示する。

火災の覚知方法としては、自動火災報知設備によるベル鳴動やスプリンクラー設備の起動など機械により覚知する場合と、人が発見することにより覚知する場合の2つが考えられます。覚知した方法により訓練の流れが変わってきますので、訓練の都度実施方法を変えてみると良いでしょう。

★2 現場確認の要領(自動火災報知設備等による覚知)

- ① 発信機を押すなどの方法で実際に自動火災報知設備の感知器を作動させ、非常ベルを鳴らします。設備の使用方法がよくわからない場合は、消防設備業者への立ち会いを求めても良いでしょう。



※自動火災報知設備の受信機と警戒区域図により火災が発生した場所を確認します。

- ② 自動火災報知設備の受信機により、発報した警戒区域を確認後、現場に急行し火災かどうかを確認します。確認の際は、初期消火への対応も考え、近くにある消火器を持参して下さい。
- ③ 自動火災報知設備の受信機が設置してある場所に、対応できる人員が数人いる場合は、連絡のための要員を一人残し現場に急行します。現場に急行する人は受信機で火災を覚知した人以外でもかまいません。
- ④ 現場に到着し火災を発見した場合「火事だ!、火事だ!」と大きな声で2回叫びます。
- ⑤ 火災であることを確認したら、職員詰所や宿直室等へ状況を連絡し、連絡を受けた人が消防機関に119番通報します。確認後は、直ちに初期消火活動を行います。数人で確認に行けば連絡すると同時に初期消火活動に移れます。また、P型1級の発信機などは、送受話器を持って行くと良いでしょう。

★ 2—2 現場確認の要領(人が発見した場合)

- ① 「「火事だ!、火事だ!」と大きな声で2回叫ぶ。
- ② 職員詰所や宿直室等へ状況を連絡し、連絡を受けた人が消防機関に119番通報します。また、発信機を押して非常ベルを鳴らすなどの方法で、火災であることを建物の中にいる人に知らせます。その後、近くにある消火器等を活用して初期消火活動に移ります。

★ 3 通報・情報伝達(通報・情報伝達の例)

- ① 現場確認者等から火災発生の知らせを受けた場合は、直ちに消防機関への通報を行います。(事前に通報約5分位前に消防署に通報する旨を伝える)

※電話番号 斜里消防署 23-2435 ウトロ分署 24-2110
小清水分署 62-2851 清里分署 25-2110

【119番通報の例】

通報者: 119番を発信する。

消防: 「はい、119番消防です、火事ですか? 救急ですか?」

通報者: 「火事です。」

消防: 「場所はどこですか?」

通報者: 「〇〇町〇〇町〇〇番地の〇〇です。」

消防: 「その建物は何階ですか? 燃えているところはどこですか?」

通報者: 「〇〇階の〇〇が燃えています。」

消防: 「逃げ遅れた人はいませんか?」

通報者: 「〇〇名が逃げ遅れています。」又は「逃げ遅れはいません。」

消防: 「近くに目標となる建物はありますか?」

通報者: 「〇〇があります。(〇〇の〇〇側になります。)」

消防: 「あなたのお名前を教えてください。」

通報者: 「〇〇です。電話は〇〇の〇〇〇〇番です。」

消防: 「わかりました、すぐに向かいます。」

※ 火災時はパニックになり、落ち着いて説明出来ず、時間がかかると思いますので、誰でも通報できるように、例えば朝礼の際、定期的に全員が口に出して練習することも大切なことです。

電話の近くに通報要領を貼っておきましょう、又携帯電話に119番を短縮に入れておくことも必要なことです。

消防機関へ通報する火災通報装置を設置している建物は、通報ボタンを押して通報となりますが時間の余裕があれば、消防から呼び返しがあるので対応して下さい。

- ② 119番の通報が終了したら、次は建物の中にいる人に火災が発生したことを知らせます。(非常放送設備がある場合は活用しましょう。)特に大規模な建物では、火災の状況に応じて、出火階から出火直上階へと、優先順位をつけて順次伝達していきます。また、ホテル等宿泊客がいる場合は(特に出火階の場合)各部屋毎に伝達して回ることが重要です。沢山の人が建物の中にいる場合は、パニック状態になることも考えられますので、不安を与えないように落ち着いた口調で放送を行います。放送設備がない施設では、拡声器等を利用してできるだけ早く伝達します。

放送文の例

「お客様にお知らせします。只今〇階の〇〇で火災が発生しました。係員の指示に従って避難して下さい。エレベーターは使用できません。」

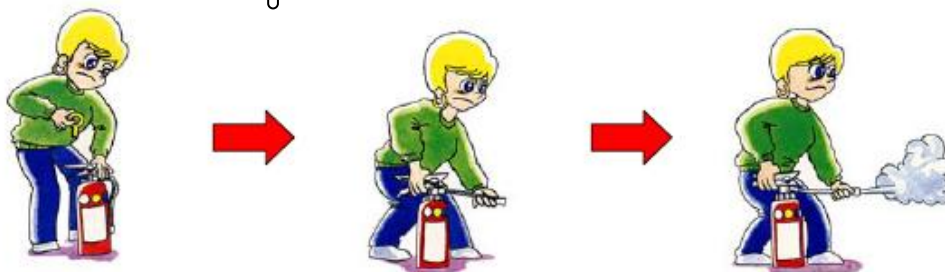


★4 初期消火

■ 消火器による初期消火活動

消火班は、出火箇所に消火器を集結し消火活動を行います。

粉末消火器の使い方



- ① 安全ピンを抜く ② ホースを火元に向ける ③ レバーを握って放射

■ 屋内消火栓による初期消火活動

① 1号消火栓の場合

(放水する人と消火栓側のバルブを操作する人の2人が必要です)

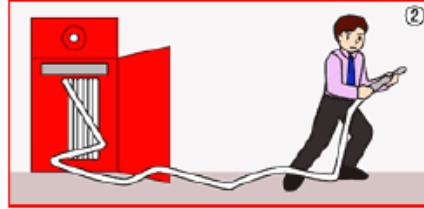
ホースがねじれないように確認しながら延長し、出火箇所に向かいます。放水の準備ができたなら「放水初め」の合図を行い開放します。発信機のボタンを押して、消火栓ポンプを起動します。



② 2号消火栓の場合

(操作は1人でできます。)

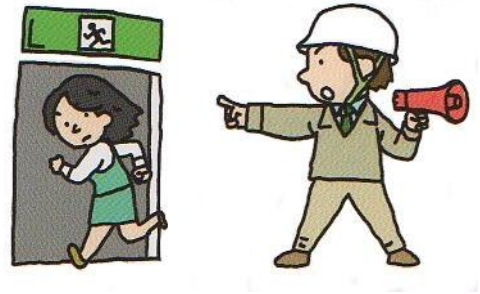
バルブを開放すると消火栓ポンプが起動します。ホースを持ちながら出火箇所に向かい、放水準備ができたならホースノズルのコックを開き放水します。



★5 避難誘導

■ 避難経路の選択

避難の際は、出火箇所を避け、煙等の被害を被る恐れがない経路を選択しましょう。
また、避難経路はできるだけ安全に「地上」まで避難できる施設を選択しましょう。
エレベーターは火災による停電で停止する可能性があるので使用しないこと。



・ 屋外避難階段

外気にさらされているため火災による煙の影響が少なく安全性が最も高い。

・ 屋内避難階段

防火戸等がきちんと作動していれば堅穴区画が形成されるため、安全に避難できる。

・ 避難器具

避難はしご、救助袋、緩降機等、様々な種類があるので、種類は何か、設置されている場所はどこか等、又その使用方法についても熟知しておく必要があります。

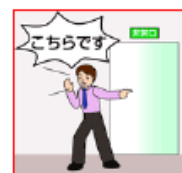
■ 誘導方法

自力で避難できる人には、大きな声でどこからどこへ避難するか指示します。

ハンドマイクがあれば便利です。また、ハンカチ等を口と鼻にあて、煙を吸い込まないよう姿勢を低くして避難するように指示。



ハンドマイク



★6 消防隊への情報提供

消防隊が到着したら、以下のような情報を提供して下さい。また、必要であれば、出火箇所への誘導を行って下さい。

- ① 全員避難したか？逃げ遅れはないか？
- ② 負傷者はいるか？(何名？負傷の程度は？)
- ③ 出火箇所はどこか？何が燃えているか？燃えている範囲は？
- ④ 初期消火は成功したか？
- ⑤ その他必要事項

★7 訓練実施結果の検証

- ① 避難に要した時間はどのくらいか？また、前回と比べてどうか？
- ② 通報は適切に行われていたか？
- ③ 消火器や屋内消火栓の操作に不備はなかったか？
- ④ 避難経路は安全・適切であったか？
- ⑤ 避難誘導時や搬送時の危険性はなかったか？
- ⑥ 指示は的確に伝わっていたか？
- ⑦ 通報・消火・避難誘導の連携がスムーズであったか？
- ⑧ その他必要事項

※ 検証は次の消防訓練の実施に向け重要な事項です。